

しおんだより VOL.59



薬局の管理栄養士の病院研修が始まりました

当院では、薬局の薬剤師さんの病院研修を5年ほど前から行っています。これは、「ときどき入院、ほぼ在宅」という地域包括ケアシステムの中では、患者さんはその時々の状態に応じて、病院や自宅、介護施設で過ごされる時代の到来に備えた取組です。

西岡栄養科主任の熱血指導を受ける木村さん。
色々なことを学び、在宅医療の現場や地域で役立てて欲しいと思います。

高齢者の医療の多くは薬物治療です。病院での治療がスムーズに在宅で続けられるようにするためには、病院、薬局の薬剤師がともにお互いの状況を知り理解しておくことが必要です。それを進めるためにも、薬局の薬剤師に病院で研修して頂くことが有用だと考えてやってきました。実際、その成果は少しずつ出てきています。

高齢者の医療においては、薬物治療と同様に栄養も大切です。その昔、栄養学の偉い先生が「万病に効く薬はないが、栄養は万病に効く」とおっしゃったそうですが、まさにその通りだと思います。当院では、各病棟に管理栄養士さんが配置されており、食事内容や形態の調整だけでなく、栄養状態や嚥下状態なども多職種とも連携して評価し最適な食事や栄養剤の内容を考え、医師と協働して患者さんに提供しています。

しかし、自宅や施設に帰ってしまうと、なかなかそれが難しい。また、病気になる前の方への栄養指導もまだまだ行われていません。薬局での管理栄養士による指導が当たり前になる時代を目指して、まずは、第一歩、踏み出してみたところです。

燃焼系アミノ式ならぬ「接遇道思温式」

すごい美味しいけど愛想の悪いラーメン屋さんと、すごい愛想は良いけど美味しくないラーメン屋さんとなら、どちらに行きたいですか…？ずいぶん前、「究極の選択」みたいな企画で良く出てきた質問です。「そうだなあ…」と腕組みして考えるのも楽しいものです、ただ、私はちょっと変わっているのか「そりゃ、愛想も良くてすごい美味しいラーメン屋さんでしょ」と思っていました。

病院でも、似たようなことがあります。すごい愛想が悪いけど腕の良いお医者さんと…というような感じでしょうか。当院は「地域の方々に思温病院があるから安心・安全と思って頂くこと」を理念として取り組んできました。医療の質の向上は永遠に取り組むべきテーマですが、10年経って少し成果が見えてきました。その上で、接遇の向上も重要と考え数年前から外部から講師をお迎えして取り組んできました。そして、今回、接遇マナー委員会が結成され活動を始めました。まずは、職員同士が笑顔で挨拶をするところから徹底していきたいと思います。引き続きよろしくお願ひします！



ちょっとした遊び心を持ちたいですね

仕事や家事などで、あっという間に1日が終わってしまうという方も多いのではないかと思います。私も、朝病院に来て、気がつけば夕方という日の方が圧倒的に多いです。

そんな慌ただしい毎日の中でも、ちょっとした遊び心やユーモアは忘れずにいたいものです。眉間にしわを寄せていても、にこやかにして時には柔らかい笑いがおきても、過ぎていく時間は同じですから。



先日訪れたレストランで見かけた
トイレトペーパーホルダー。
なんとなく微笑ましいですね。

先月の「しおんだより」では、病棟のスタッフステーションに置かれていた万博のマスコット「みゃくみゃく」を紹介しました。ああいったちょっとした心遣いは、まさに一服の清涼剤となり、がんばるぞ！という気持ちが湧いてきます。

先日、仕事の会食で訪れたレストランのトイレに、重量挙げの選手のようにトイレトペーパー2つを持ち上げているホルダーがありました。そないに重くはないやろ！と突っ込みながらにやったことで、緊張の糸がほぐれました。（文責：狭間研至）

しおんだより 第59号 発行日：令和7年9月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp